

佐賀産品大集合！

佐賀市 フェア

入場無料

SAGA CITY FAIR 2026



佐賀の味と文化、

そして島義勇の歴史に

ふれる2日間。



10月6日(火)
7日(水)
10:00~18:00



同時開催

北海道開拓の父
「島義勇展」



島
義
勇

現佐賀市
出身！

「Copyright (C) : Yukiko.I.2018」



開催場所

sapporo55ビル

札幌市中央区北5条西5丁目7番地

5F キャリアバンク(株) 「佐賀市フェア」

1F インナーガーデン 「島義勇展」



主催：(一社) 佐賀市観光協会 共催：佐賀市 協力：キャリアバンク株式会社 リンケージサービス株式会社

～札幌150年の原点を訪ねて～ 北海道開拓の父 「島義勇展」

志は北の大地へ。札幌建設の礎を築いた島義勇の足跡。

熱き心で、極寒の大地を切り拓く

佐賀藩士島市郎右衛門の長男として佐賀城下西田代橋小路に生まれる。9歳の頃より藩校「弘道館」に学び、23歳で卒業。家督を継いだ後は諸国を游学し、帰国して藩主鍋島直正の外小姓、弘道館目付となる。枝吉神陽の「義祭同盟」にも創設期から参加し、そこで江藤新平や大木喬任とも出会っている。

1856年、直正の信頼が厚かった島はその命で、当時の未開拓地であった蝦夷地（現在の北海道）の探検に随行。厳しい寒さの中、約2年に渡って北の大地を歩き続け、その詳しい調査結果を記した「入北記」を残している。

明治新政府では直正が蝦夷開拓督務となると、島はその経歴を買われ開拓使判官に就任。北海道開拓のまちづくりを任される。札幌を中心としたまちづくりを進めるも、予算による衝突で志半ばで解任。後に秋田県権令となるも、ここでも中央政府とぶつかりまたも解任。後の佐賀の乱（佐賀戦争）では愛国党の党首となって戦うも敗れ、53年の理想に燃えた生涯を閉じた。



▲東郷姿の島義勇（北海道大学付属図書館蔵）

【概略年表】

西暦	西暦	西暦
1822	文政5年	1
1830	天保元年	9
1844	弘化元年	23
1847	弘化4年	26
1850	嘉永3年	29
1856	安政3年	35
1858	安政5年	37
1868	慶応4年	47
1869	明治2年	48
1870	明治3年	49
1872	明治5年	51
1874	明治7年	53

【1889年（明治22年） 職名を解かれ、1916年（大正5年） 従四位を贈られた】

極寒の大地で島が目指した理想郷

島が都市設計の基礎を行った札幌の街。地図で見てみると、道が碁盤の目のように並び、地名にも一条、二条と言う名前が並んでいる。実はこれ、島が京都の町並みを参考に設計したため。札幌に日本一の町作りを目指した島だったが、厳冬の状況下、その工事は困難を極め、1年分の予算を3ヶ月で使い果たしてしまい、想い半ばで解任になってしまう。しかし、その先駆者たる島を札幌開拓の父として掲載し紹介している教科書もあるのだ。



◀「入北記」(北海道大学付属図書館蔵)

島が2年間に渡る北海道探索の記録をまとめたもの。植物や生態、アイヌの人々の生活の様子など、図入りで詳しく描かれている

1889年（明治22年）の札幌地図
（札幌市中央図書館蔵）▶

碁盤の目のように整然と整備された町並みの中央には、当時としては類を見ない幅50mの大通りが見て取れる



島を駆り立てた船中での挑発

士族による不穏な動きがある佐賀へ向かうため、島は船へと乗り込んだ。そこには、佐賀県権令として赴任する岩村高俊の姿もあった。船中、岩村は取巻き相手に佐賀人を高声にののしり、それを聞いた島は岩村と掴み合いの喧嘩になる。翌日、下関で降りた岩村が兵隊を連れて佐賀に乗り込むと聞いた島は怒り、討伐されようとしている佐賀のために起つ決心を固めたという。また、島は義祭同盟の志士たちの中でも特に過激な攘夷論者として知られていた。佐賀の乱（佐賀戦争）で江藤新平と一緒に戦ったのは思想的に近い同志というよりも、各々の事情で政府軍を共に迎え討ったというのが真相らしい。

「佐賀県逆動記聞」1877年刊（佐賀県立博物館蔵）▶

佐賀の乱（佐賀戦争）を描いた錦絵。
島や江藤新平の姿も描かれている。



※出典「佐賀の賢人book」より

sapporo 55ビル
1F インナーガーデンにて開催！

10月6日(火)・7日(水)
10:00～18:00
～ぜひお立ち寄りください～